

防水シート用SBセパ止水工法 施工要領書



株式会社 北斗金属工業

2016.2.16 改訂

製品概要

1: 工法名

防水シート用SBセパ止水工法（特許取得済み）

2: 製品開発・製造

株式会社 北斗金属工業

3: 使用製品名

①スクリービット（特許取得済み）

②大型止水リング（特許取得済み）

4: 各製品使用実績

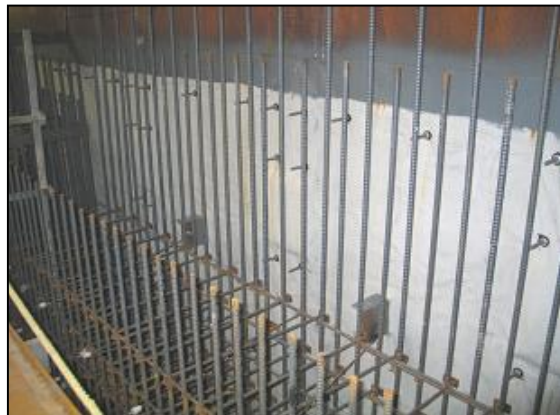
別紙実績書参照

5: 問合せ先

株式会社 北斗金属工業

TEL:03-3800-1511

FAX:03-3800-0684



製品仕様

1: スクリュービット



上: 防水用ビット

下: 調整パイプ

ビットネジ部長さ(調整パイプ取付側)

建築用:L20

W1/2用:L30

土木用:L20

大深度用:L30

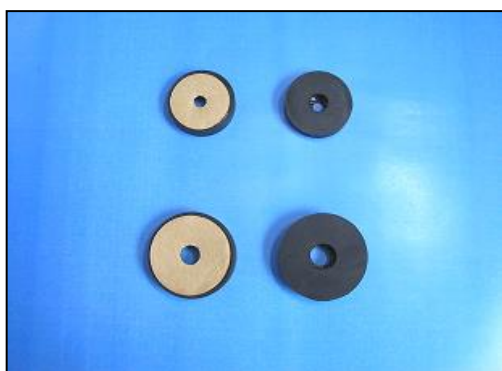
※詳細なサイズ・タイプは『防水シート用SBセパ
止水工法』カタログ参照

スクリュービット特長

- ① 強度が高くバラつきが無い
- ② 叩いて曲げても強度低下無し
- ③ 100Vの電源で即施工可能
- ④ 届け出・資格等一切不要
- ⑤ 火気を使用しないので防水シートに影響が無い

※詳細は『スクリュービットシリーズ』カタログを参照

2: 大型止水リング



上: W5/16(建築用)・W3/8(土木用)
W3/8(大深度用)共用

下: W1/2(土木用)・W1/2(大深度用)共用

大型止水リング特長

- ① 防水シートに対し強力に接着し優れた防水性を発揮する
- ② 施工が簡単である
- ③ 有害物質ではないので人体に無害である

※ シートの材質によっては、大型止水リングが接着しない場合があるので
事前に確認すること。

施工前条件

-スクリービットの施工について-

施工前条件(以下の条件で1日約300本の施工が可能)

- ① 墨出しの実施
- ② 配筋作業より先行しての手配
- ③ 高所作業の場合は足場や高所作業車の確保
- ④ 100V電源の設備
- ⑤ 作業場所の資材の仮置き等の撤去

作業効率が低下する場合

- ① 差筋の箇所を施工する場合
(アトラマスターが使用できず、ボーラーに長いシャンクを取り付けて施工を行うため)
- ② 柱周りだけを先行して、施工を行う場合
(移動や機械の段取りの時間が増えるため)
- ③ ローリングタワーで施工を行う場合
(毎回の移動・乗降や機械の段取りに時間がかかるため)
- ④ 他業者との相番作業の場合
(鉄筋業者、圧接業者または溶接業者との同時作業はお互いの業務に支障をきたすため)
- ⑤ 資材、機材等が高所作業車の移動を妨げる場合
- ⑥ H鋼に泥や錆が付着している場合

施工が不可能な場合

- ① 墨出しが行われていない場合
- ② 降雨量が多い場合(小雨程度なら施工は可能)
- ③ 配筋箇所や差筋のピッチが細かく機械が入らない場合
- ④ 高所作業において、足場手段の確保ができない場合
- ⑤ H鋼が著しく腐食している場合
- ⑥ 足場板の距離がH鋼から50cm以上離れている場合
- ⑦ レール鋼を使用している場合
- ⑧ スクリービット施工より先に防水シート施工が行われた場合

-防水シート用SBセパ止水工法について-

- ① 漏水を防止するために必ずスクリービットと大型止水リングをセットで使用する
 - ② シートの材質によって大型止水リングが接着しない場合があるので事前に確認する
 - ③ 各工程をどの業者が行うかを事前に打ち合わせで決めておく
- スクリービット施工
 - 防水シート施工
 - 大型止水リング・調整パイプの取り付け

施工手順

1: スクリュービット施工



①H鋼に防水用ビットを取付ける。



②横矢板には防水用矢板金具の座金を取付ける。

詳細な取付方法は『スクリュービット施工要領書』および『矢板金具施工要領書』を参照

※注意事項

- 防水用ビットや防水用矢板座金の取り付けは必ず**防水シート施工前**に行う
- 取り付け忘れ箇所がないか確認する

2: 防水シート施工



①防水用ビットの上から防水シートをかぶせる。



②ハンマーで防水用ビットの**周囲を軽く叩いて**防水シート貫通させてネジ部を露出させる。
(防水用矢板座金も同様に行う)



防水用ビット貫通状況

※注意事項

- 防水用ビットを貫通させる際は**ネジ部の先端を損傷しない**ように注意する。
- 吹き付けの防水シートの場合はネジ部先端をホースやテープ等で養生すること



3: 大型止水リング・調整パイプ取り付け



①大型止水リングの離型紙(茶色)を剥がす。



②ブチルゴム側(粘着面)を防水シート側に向け、貫通したネジ部を通して押し付ける。
(ブチルゴムがネジ山を覆っても問題無い)

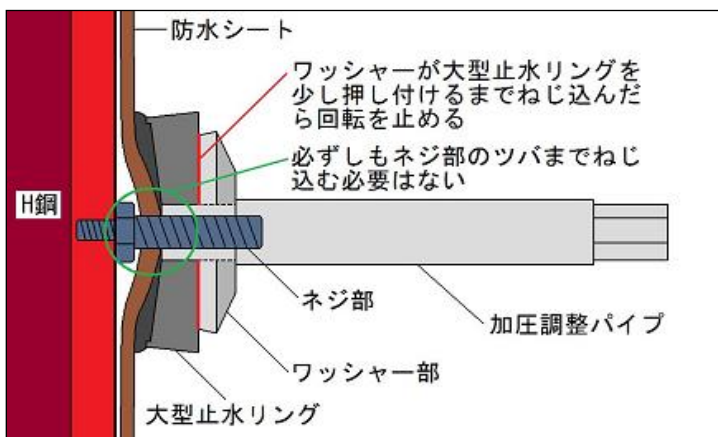


③大型止水リングを押しつけながら、インパクトレンチで調整パイプを取り付ける。
ねじ込み過ぎに注意する。



④ねじ込み不足でグラつきがないか確認する。

【加圧調整パイプ取り付け時の注意点】



【加圧調整パイプ施工状況】

大深度用の加圧調整パイプ(ワッシャー付)使用の場合は、**ワッシャー部が大型止水リングを少し押しつける程度でインパクトレンチの回転を止めること。**
特に防水シートの皺が大きい個所や塗膜ムラでネジ部周辺が盛り上がっている場合は、大型止水リングが浮かされて早い段階でワッシャーが当たるため、**奥まで無理にねじ込もうとするとネジ部に過剰な引張負荷が掛かり、破断の恐れがある。**

※注意事項

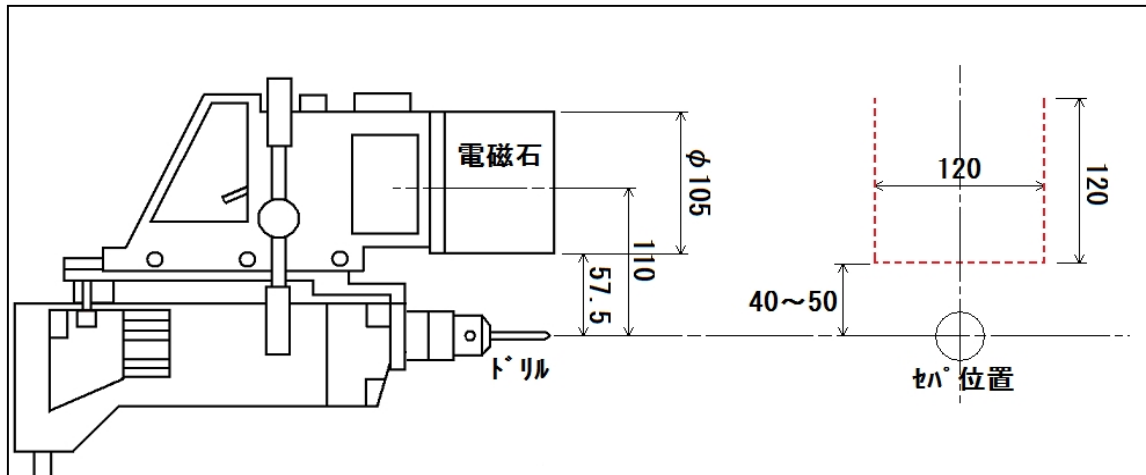
- 大型止水リング使用前は直射日光や雨を避けて保管すること
- 調整パイプ取り付けの際は大型止水リングが**共回りしないように押さえつけること**
- 防水用ビット破断の恐れがあるので調整パイプの**締め付けすぎに注意する**
- 調整パイプ先端の**六角部は叩かないこと**(ネジ山が変形しセパレータがねじ込めなくなる)

4: 防水シート施工後にやむを得ずスクリービットを施工する場合

防水シート施工後に打ち忘れや補修としてやむを得ずスクリービットを施工場合は下記の要領でおこなう

※以下の方法は応急対応であるので通常は必ず防水シート施工前にスクリービットを施工すること

①防水用ビットの施工



上図のように防水シート上のセパ位置より40~50上がりを下端として、3辺に120程度切り込み(赤い点線部)をいれる。(3辺の切込みは横方向でも構わない)

切込んだ箇所をめくり、H鋼を露出させてマグネットの磁着箇所を確保して施工を行う。

②防水用矢板座金の施工

矢板のセパ位置を中心として70mm角以上の3辺切り込みをいれる。(横方向切り込み推奨)

切込んだ箇所をめくり、矢板を露出させて防水用矢板座金を施工する。

※注意事項

- スクリービット施工後は切り込み箇所を各防水シートの施工要領に沿って補修を行う
- H鋼のジョイントプレート上に施工する場合は大きく切り開く必要がある
- 防水用矢板座金は矢板の継ぎ目にねじ込まないように注意する